

宮城県日中友好協会

TEL・FAX 022-274-3811

E-メール jcfa-miyagi@rose.plala.or.jp

ホームページ http://www16.plala.or.jp/miyagikenn/



6月、(風待月、かぜまちづき)。いよいよ今月で2020年度の会計年度を終え、7月からは2021年度の会計年度になります。コロナの影響で20年度はあらゆる活動に制限が加えられ、各地区協会も活動報告の作成に苦慮されていることと思いますが、コロナワクチンの接種が始まったので21年度は少しは活動が活発になるのではないかと考えています。新年度は会員の皆様によき風が吹くことを念じています。

1. 5月の行事

日 時	行 事 名	場 所
6月6日(日)	漢方健康講座「梅雨時の過ごし方」講師：曾萍氏 10:00～11:30 会費：500円、先着15名 コロナ感染状況によっては中止の場合もあります。	仙台国際センター多文化共生センター研修室
6月18日(金)	女性委員会総会 10:30～ 記念講演「パンダ誘致について」講師：宮城県日中友好協会 武智副理事長	仙台国際センター
6月27日(日)	富谷市日中友好協会 14:00～	町上会館

※ 各地区協会・委員会の行事報告等あれば掲載いたしますので、ぜひFax, メール等でお知らせください

2. オンライン講座「中国の洒落言葉を楽しもう！」(青年委員会 吉澤千明)



青年委員会では4月25日「中国の洒落言葉を楽しもう！」という学習会をZOOMで開催しました。参加したのは10名。当初国際センターで開催予定だった企画でしたが、宮城県の緊急事態宣言を受けて初めてオンラインで開催することを決定。講師は東北大学工学部助教の羅漢氏。女性委員会から金井恭子相談役と瀬戸加寿子事務局長に参加いただきました。青年委員会事務局もオンライン講座開催の経験がない上、参加予定の方々の中にもZOOMを使った経験がないという方が半数いたため事前に個別ZOOM練習をして当日に臨みました。中国の洒落言葉について講師がいろいろな例を出しながら日本語で解説してくれるため中国語未学習の方にも楽しんでいただける内容でした。解説を聞きながら参加者は自由に質問し、講師が答えるという形式で和やかに講座は進みました。参加者からは「前回実際に会場で勉強した楽しさと変わらないくらい楽しかったです。また次回が楽しみです。」といった感想や「テキストで習う言葉ではなく実際の日常会話で使う言葉を学ぶことができてためになりました。」といった感想「ZOOM初で大感激です。」「楽しくかつ有意義な時間を過ごさせていただきました。この歳になって新しい経験に挑戦出来たことを感謝しています。」といった感想が寄せられました。青年委員会では今後もオンラインを活用し様々な企画を考えていきたいと思えます。ZOOM初挑戦の方々にも安心してご参加いただけるように個別対応いたしますので「一度挑戦してみたい。」と思われる方は是非ご連絡ください。

3. 旧満州で起きた葛根廟事件の生存者大島満吉(85歳)の実話(菅原勝彦氏 投稿)

この体験記は、「星火方正」の機関誌に掲載される予定の原稿です。「星火方正」は日中友好の機関誌です。昭和47年にピンポン外交で田中角栄首相と周恩来首相が国交を回復し、多くの残留孤児が帰国することができました。周恩来首相の指示で黒竜江省ハルビン市方正県に日本人の戦死者や開拓団の墓標が建設されました。約5000人の慰霊が埋葬されています。葛根廟事件は昭和20年8月9日にソ連が国境を越えて満州国に侵略しました。私は父が興安軍官学校に勤務しており、前線に出陣しており、軍人家族約200人は8月10日の夜7時に興安駅から脱出しました。約3000人の日本人家族は、根こそぎ動員で残された男子は召集されており、残された老人・女性・子供は列車が爆破されてしまっていたので、隣の駅の「葛根廟」まで徒歩で40キロの泥道を避難しました。目的地の「葛根廟(ラマ教の寺院)」を目前にした8月14日11時40分待ち伏せしていた14台の戦車に攻撃された事件です。約1300人の避難民の内生存者は約200人です。この事件の残留孤児32名は中国人が育ててくれました。この事件は終戦の前日に満州で起きた最大の悲劇です。再び、「戦争のない当たり前の生活」ができるような社会を願って体験者の大島満吉さんの体験記を送らせていただきます。

4. 「激流の中で 敗戦後中国で育った少年とその後」江幡武名誉会長著書の紹介



江幡武名誉会長が「激流の中で 敗戦後中国で育った少年とその後」と題された書籍を自費出版されましたのでご紹介いたします。

興味のある方は事務所に置いてありますので、ご一読をお勧めいたします。

本書は、

第一章：敗戦（敗戦、小学校の生活、父母の事）

第二章：新中国とともに（訥河、再びチチハルで、沈（瀋）陽、北京医院、北京三中、三反五反）、

第三章：帰国（日本へ、相馬、五十年）、

第四章：新しい船出（中国語が戻ってきた、残留孤児との付き合い、植林事業を始める、植林事業での見聞と体験、隋希英・張国華・本郷女史、戦後75年、岡千仞・金世竜・王勤謨・王惕斎）、

第五章：エピローグ・漂着

の5章に分けて綴られております。

今では想像のつかない時間を過ごされた先生の経験を通して、現在の日本、中国を見直されるのもいいかと思えます。

5. これからの県日中の予定

- | | | | | | |
|------------------|----|-------|--------|--------------|--------|
| 1) 宮城県日中友好協会理事会 | 7月 | 3日（土） | 13:30～ | 宮城県民会館 | 401会議室 |
| 2) 会計監査 | 7月 | 3日（土） | 10:30～ | 宮城県日中友好協会事務所 | |
| 3) 宮城県日中友好協会定期総会 | 9月 | 4日（土） | 13:30～ | 宮城県民会館 | 601会議室 |